

よりよい合意形成を図る学級活動

1. 一連の活動と自発的・自治的活動の展開

協議の視点である「児童が話し合いの中で、互いの主張を認めながら合意形成に向かっていったか、また、そのようになった要因について」が協議の視点であった。

本授業の特徴として、第一に、特別活動における問題の発見確認、解決方法の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りという五つの一連の活動が大切にされていた。提案授業ではお試しの活動が組み込まれることで、一覽の活動が二度繰り返され、活動の質が高められるようになっていた。高学年では、一連の活動を振り返って、次の活動に生かしていくことを意識した取組にすることが求められる。一連の活動を繰り返す中で、どのように合意形成を図ればよいか、また合意形成してやってみた実践はどうであったかを振り返ることで質を高め、話し合いを繰り返す中で合意形成の知識技能が身についていく。特別活動の年間指導計画では、このような一連の活動を計画的に積み重ねられるように、そして、子供たちが議題を決定し、話し合いの経験ができるように融通がきくものにする必要がある。

第二に、本授業では子供たちの自発的、自治的な活動が効果的に展開されていた。議題は計画委員会などで適切に選定し、学級全員で決定する必要があるわけだが、今回、各グループで、全員で検討してほしい内容が出てきて、学級活動で話し合いたい、みんなの考えを活かしながら決定したいというように、その議題への必要感が生まれていた。しっかりと議題を学級全員で決定することで一人ひとりが自分事として議題をとらえ、自分の考えを発表することができていた。提案理由も子どもたちが自分の意見を考え、合意形成をする上での基盤となるもので、本時でも提案理由を根拠にして大事にしながら話し合いがなされていた。1年生担当のグループは提案が具体的になるように動画まで準備され、2年生担当のグループは実際に授業参観に行つてその様子をしっかりと報告していた。小集団になることで一人一人の役割が明確になり、主体的にとり組むことができていた。

2. 合意形成の成果と課題

第三に、合意形成については、その手順や方法など、知識技能も身につける必要があり、高学年では、出された意見を元にして組み合わせたり、良いところを取り入れて新たな考えを生み出したりすることが求められる。今回は、各グループの提案に対する意見をもらって、それをもとに担当者が考えるという形になっていて、学級全員が合意形成を図り、全員で決定できていたか、その点で課題の残るところであった。二つの学年の検討を1時間で行うということで時間が不足してしまった面もあった。授業で欲しいものを景品にするという提案についてももっと話し合いを重ねて合意形成ができればよかった。

また、少数意見や扱われない意見に対しても、そこにある思いや願いを活かせないか、という点も考えたい。納得度メーターは、全体の平均（合意形成の度合い）が円グラフにより一目で、視覚的、感覚的にとらえやすくなっただけでなく、67%など、納得度が低い子供たちの存在も分かるようになった。そのような納得度が低い子供たちの意見を聞く機会が持てると良かった。また、75%以上だと納得していると言えるのかなど、その確認も必要であろう。

(本稿は助言者であった中央教育事務所指導主事の眞壁豪氏からの指摘と協議の内容をもとにまとめた)